放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　6年　2月　14日　　事業所名 Roselle Association CLUBIII

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			活動に必要なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	6			管理者兼児童発達管理責任者1名、保育士２名、児童指導員2名配置しております。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	4		一日のスケジュールをホワイトボードに記入し、見通しをたてられるよう工夫している。	トイレ一箇所が段差無しのトイレを設置。その他、必要に応じて対応していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6			朝のブリーフィングでその都度、見直しを行なっている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			アンケートをもとに業務の見直しが出来るので助かります。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			ホームページでの公開を行なっている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			第三者委員会は設置していないが、同グループでの検討を行い、業務改善に繋げている。社内実地指導を実施し他事業所や他法人のアドバイスを改善に役立てている	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			グループでの支援向上委員会を設立している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			アセスメント後に事業所での個別支援会議を行なっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			沖縄県が発行している「えいぶるノート」を活用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			マンネリしないよう、室内でのプログラム・屋外プログラムをチームで出し合っている。	法人（グループ）での運動プログラムを実施しているが充実したプログラムにしていきたい
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			児童の意見も取り入れ工夫している。	法人（グループ）での運動プログラムを実施しているが充実したプログラムにしていきたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			タイムスケジュールを策定し、状況に応じて支援を実施。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	6			児童の特性等に応じて計画を立てている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			毎日、ブリーフィングを実施。（注意事項・活動内容の確認等）	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有している	6			毎朝のブリーフィング時に気づいた点や支援に関して情報共有している。	緊急性が高い内容であれば実施しているが、翌朝のブリーフィングでの振り返りをしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			児童の成長記録をとることで支援の改善につなげている。提供日誌・成長記録をとり、振り返りを職員と実施。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			３ヶ月もしくは６ヶ月ごとにモニタリングを行い、目標達成の確認と見直しを行なっている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	6			地域へ戻れるよう自立支援を目指し、日々療育を行なっている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			児童発達支援管理責任者と状況に応じて児童指導員（保育士）を同席している。	OJTにて児童指導員をトレーニング中。

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6			学校へお迎え時、先生と連絡を取っている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6			該当児童なし		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			相談支援事業所と連携して情報を共有している。		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			相談支援事業所と連携して情報を共有している。	関係機関との連携を相談支援事業所などの協力を得て進めていく	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1		5		外部主催の研修等に積極的に参加するように行なっている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			6		コロナ前は地域の児童と交流する機会があったが、今ではほとんどない。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1		5		関係機関との連携を協力を得て進めていく	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			送迎時に活動や様子をお伝え、もしくは連絡帳を活用している。		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	6			保護者より相談があればその都度対応している。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			利用前の契約の際に説明を行なっている。		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			様々な機会に提案や支援方法をアドバイスしている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1			前回の保護者会で保護者同士での話をする時間がなかった。そのような時間も設けていきたい。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			管理者へ報告し、早急に対応できるよう努めている。		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			月一回おたよりを配布している。		
	35	個人情報に十分注意している	6			鍵つき書庫にて資料の保管と職員入社時・退社の個人情報誓約書をとっている。		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			電話や送迎時にコミュニケーションを取っている。		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			6		今後検討していく。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		6		BCPを作成し職員間で共有。避難訓練なども実施。	職員で周知しているが、保護者への周知はできていないので、保護者会などで周知していきたい。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			年２回の避難訓練を実施。		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			虐待防止・身体拘束適正化委員会を設置し、グループ全体で勉強会を行なっている。		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5		1	身体拘束に関するマニュアルのもと同意書等のフォーマットは準備できている。該当児童なし		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			アレルギーリストを作成し、職員が周知できるようにしている。		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			事業所に加え法人間でも事例を検討し対策を図っている。		